

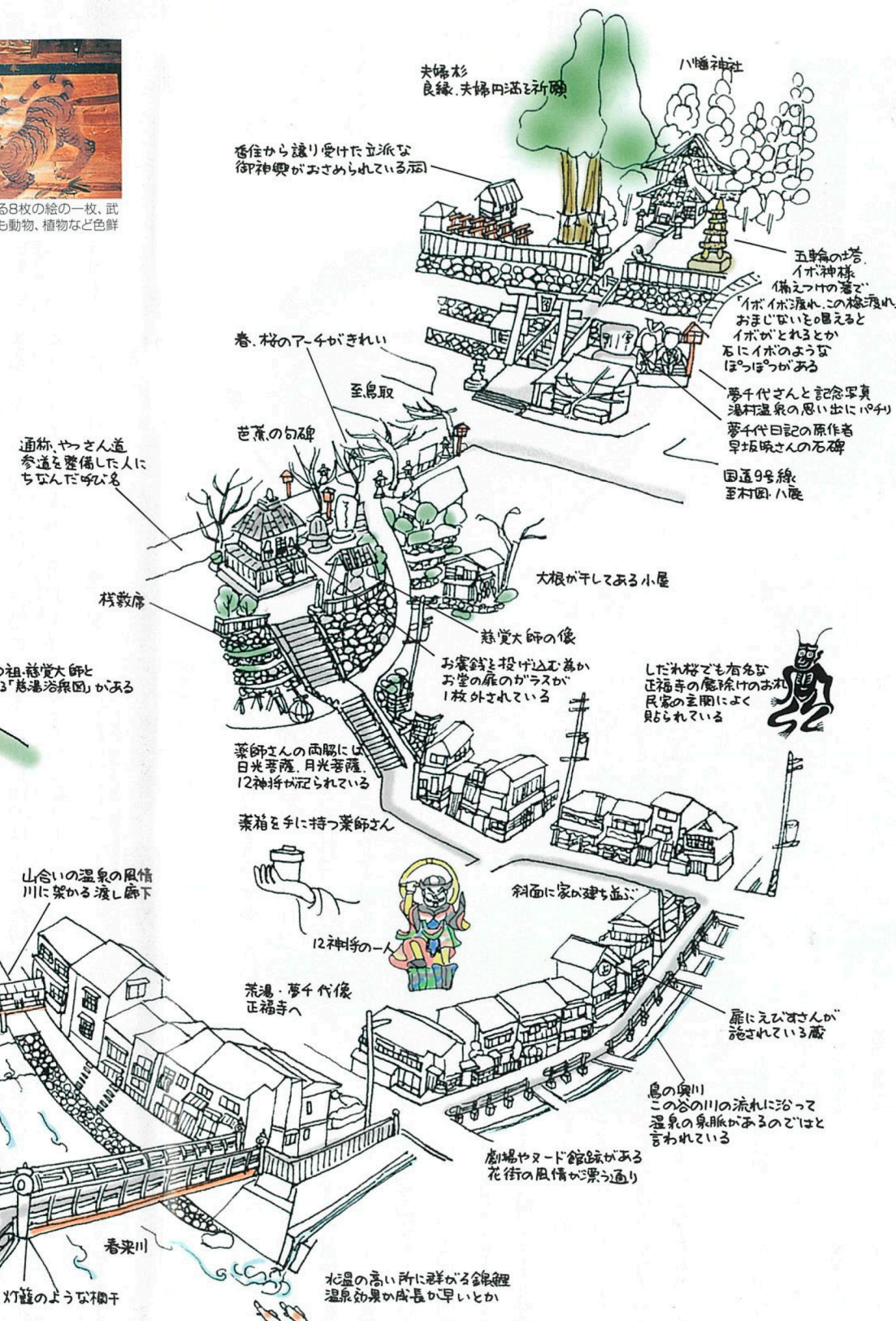
1150年以上湧き続ける98度の熱泉
いにしえから人々の心と体を癒してきた
温泉の御利益に手を合わせる

裏路地探険

湯けむりたちのぼる町／温泉町

嘉祥元年(848年)天台宗第二度の熱泉は、1分間に470リットルの座主、慈覚大師により開かれ、と豊かな湯量を誇り、いにしえから多くのの人々の体と心を癒してきました。泉質はナトリウム、炭酸水

素塩・塩化物硫酸塩泉(低張性・中性・高温泉)。神経・筋肉痛、五十肩、うちみ、冷え性などに効能があり、服用すれば胃腸病に良いとされています。
夢千代日記の舞台ともなり、現在、年間約70万人が訪れる観光温泉地、熱泉が湧き出る荒湯付近は、絶えず観光客で賑わいます。
しかし、昔は東に春來峠、西に蒲生峠と険しい山に阻まれた谷間の温泉郷。人々は、険しい峠を越え、この町へ湯治に訪れました。病回復の祈願と温泉の治癒力に感謝し、神仏に手をあわせてきた姿を今も町並みに見ることが出来ます。
八幡神社から国道9号線を横切り、薬師堂の参道を下つて、鳥の奥川沿いの路地から春來川、さらに川を渡り、大師堂、清正公園へと、谷をVの字に歩くだけでもいくつも手を合わせるポイントがあります。きれいに煉瓦で整備され、土産物屋が並ぶ通りや、荒湯の賑わいとは、



薬師堂の中に掲げられている8枚の絵の一枚、武者絵。天井板の一枚一枚にも動物、植物など色鮮やかな絵が描かれている。



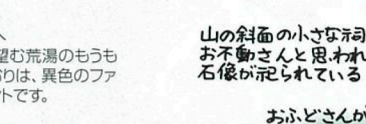
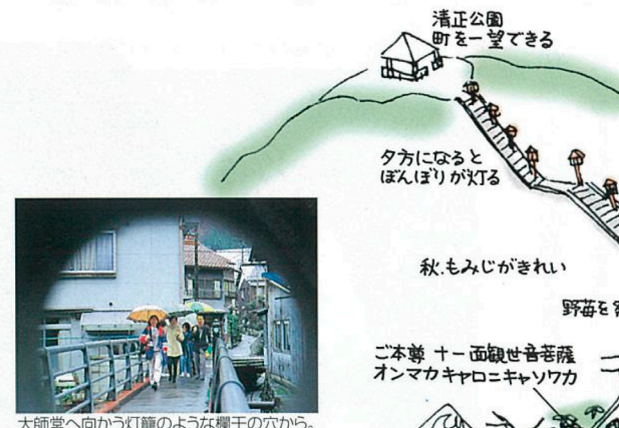
1月8日初薬師、6月第1日曜温泉まつり、7月20日祭り、11月8日仕舞薬師と年4回、法要と共に一般公開される。

八幡神社から薬師堂、大師堂、清正公園へ

谷間の温泉町をVの字に横切るライン。坂道を降りたり登ったり、静かな佇まいの中に、温泉の御利益の信仰を伺わせる。



今回参加の探険隊員のみなさん。昔、相撲などがおこなわれていた棧敷席跡の石垣で観戦気分を味わう。



大師堂へ向かう灯籠のような欄干の穴から。



山斜面の小さな祠にお不動さんと思われ石像が祀られている。おふじさんがある。

また異なった表情を見せます。「平らな土地があれば、田んぼにした」といわれるくらい、緩やかな斜面には、ぎゅーりと民家や温泉旅館が建ち並び、どの路地も狭く入り組んでいます。不思議な視点でいえば、建物と建物の隙間は、傾

斜面の段差に家がうまく建っているさまを見るようで興味深いものがあります。さらに、寒く冷え込んだ朝は、あちらこちらの路地から温泉のかすかな匂いと共に白い湯けむりがたちのぼります。理由は、約500戸の一般家庭や温泉旅館に配湯されている温泉によるもの。狭い山間の斜面に立ちのぼる湯けむりの行方をたどるのもまた面白い。



路地から荒湯へ狭い路地から望む荒湯のもうひとつとした湯けむりは、異色のファンタジーポイントです。